

小山内 弘海（おさない・ひろみ）

1、プロフィール

詩人。詩誌「胴乱」同人。青森県詩人連盟所属。平成2年詩集『一九八六年七月の朝飛行船を見に行った』で第31回土井晩翠賞・第12回青森県詩人連盟賞受賞。

<生没>

1937(昭和12)年7月23日 ～ 2024(令和6)年7月3日

<代表作>

詩集『一九八六年七月の朝飛行船を見に行った』、『花・幻』

<青森との関わり>

北津軽郡三好村に生まれる。弘前大学教育学部卒業後、小学校教員。詩誌「胴乱」同人。第3・5代青森県詩人連盟会長。

2、作家解説

1937(昭和12)年7月23日、北津軽郡三好村藻川に生まれる。1960(昭和35)年3月、弘前大学教育学部卒業。大学時代の友人に泉谷明・三浦義康氏、高校時代の友人に葛西洸氏等、個性的な詩人がいた。鶴田町立菖蒲川小学校教諭をふりだしに、西北地方・青森市の小学校教諭を経て、1985(昭和60)年に青森県教育センター第一研修課指導主事、1989(昭和64)年に東青教育事務所主任指導主事。1990(平成2)年に青森市立栄山小学校校長、1992(平成4)年に東青教育事務所次長、1994(平成6)年に青森市立長島小学校校長、1998(平成10)年3月に定年退職。青森県教育庁総務課で発行している「教育広報」の児童詩の選と評を1985(昭和60)年から担当。1991(平成3)年3月30日に『青森県の

児童詩―指導の実際と作品鑑賞―』を自費出版する。「書くという行為と精神の活性化とは、互いに関連し合い、相乗的に作用し合うと言っているでしょう」と結んでいる。1994(平成6)年11月1日に『作文指導「何を」「どう」書かせるか―心を耕し書く力を伸ばす―』を福士容・遠藤暁子・松林正志と共著で自費出版する。

1990(平成2)年3月29日に第一詩集『一九八六年七月の朝飛行船を見に行った』(路上社)を発表、同作で第31回土井晩翠賞受賞。1976(昭和51)年から1989(平成元)年までの作者39歳から52歳までの作品33編が収められている。実生活上の記録的な実感を重視する詩人にとっての象徴的な出来事は、教育職にあった父・未美との死別であった。吉野弘氏は「いずれも自分自身への厳しすぎる批評を通じ、人間の暗部のようなものを浮き彫りにする姿勢があり、日常現実に常に打たれながらそれを客観化する点が注目されました」と選評している。第12回青森県詩人連盟賞受賞。2000(平成12)年3月20日に第二詩集『花・幻』(泰斗社)を発表。1990(平成2)年から1999年までの作者53歳から62歳までの作品36編が3章に収められている。子供たちの自立・結婚、母の逝去等が作品に反映されている。

1991(平成3)年2月に青森県芸術文化報奨受賞。1998(平成10)年・1999年に第3代、2008(平成19)年から2018(平成29)年第5代青森県詩人連盟会長。

所属した詩誌「胴乱」で1992(平成4)年から終刊の2019(平成31)年3月まで編集・発行人を務めるなど、県詩壇の発展に貢献した。

2024(令和6)年7月3日、青森市内の病院で死去。享年86。

3、資料紹介

○『一九八六年七月の朝飛行船を見に行った』

図書

1990年(平成2)年3月29日発行

210mm×140mm

1976(昭和51)年から1989(平成元)年までの作者39歳から52歳の作品33編が収められている。路上社で発行。初出は「青森県年刊詩集」・「三潮」・「胴乱」

等である。自身への批評を通じて日常現実を客観化し、詩に昇華させている。第31回土井晩翠賞・第12回青森県詩連賞受賞。